

支援センター名	南会津地域センター	
所在地	〒967-0004 福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲 4277-1	
連絡先	Tel 0241-62-5367	Fax 0241-62-5254

事業の概要とポイント

この事例は、域内における不登校の児童生徒や学校へ来ても保健室（学校によっては相談室）登校で学級へ行けない児童生徒を対象に、ボランティア等の体験活動の場を提供し、活動をとおして円滑な対人関係や自立心の形成を図るための支援を行うことで、協調性・自立性・社会性を伸ばすことを目的に行った取り組みである。

この活動への取り組みにあたっては、地域センターばかりでなく、南会津教育事務所指導課、該当児童生徒を抱える学校、活動受け入れ施設等の関係者が互いに連携・協力しながら行ってきた。

地域センターとしては、各機関の連絡調整の中心となるとともに、コーディネーターもできるだけ児童生徒と触れ合うことで信頼関係を築き、児童生徒の活動への意欲が高まるようにしている。

関連した学校・団体の名称

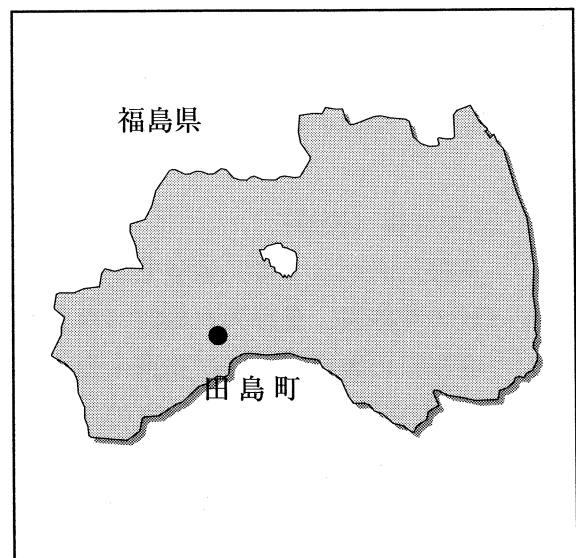
域内の中学校、保育所、特別養護老人ホーム、高等学校、社会福祉協議会

地域の現状・特色

南会津郡は福島県の南西部に位置し、面積が約2,342km²と神奈川県に匹敵する広さで、自然豊かな高原山間部である。

主要産業は、農業や林業などの一次産業であるが、近年浅草からの直通電車の会津地方へを入れる乗り入れや磐越道（高速道路）の開通、国道等の整備により関東圏からの観光客が増え、観光関連産業も伸びつつある。

郡内には3町4村があり、小学校18校、中学校11校、高等学校3校の公立学校が設置されている。どの学校もまわりを豊かな自然に囲まれ、地域の特色を生かした教育に取り組んでいる。



学校の多くが小規模校であり、さらに少子・高齢化が急速に進んでおり、学校運営のあり方が課題となっている。

企画から活動までの経緯

- 7月15日 南会津教育事務所内における生徒指導（不登校）に関する会議において、地域センターとしてできる範囲での支援依頼を受ける。
- 9月5日 事務所生徒指導担当指導主事と該当学校を訪問し、校長との懇談を持つ。取り組み方針として、学校外活動をとおして学校外の方々とのふれあいの活動を重視していくこととした。
同日、該当生徒と話し合いを持つ。生徒たちは、ボランティア活動へ興味を示し、コーディネーターが受け入れ施設を探すこととした。
- 9月10日 生徒たちとの話し合いの中で、やってみたい施設としてあがった保育所と特別養護老人ホームへ依頼にうかがう。本活動の趣旨並びに活動協力をお願いする。
- 9月12日 事前指導もかねて、該当生徒たちと受け入れ施設の見学をする。帰校後、自分たちのできる内容について話し合い、ボランティア活動計画を立てる。（介護と保育ボランティアを交互に実施するなど）
- 9月19日 活動開始
- 10月17日 スクールカウンセラーにこれまでの一人一人の活動の様子等を説明し、今後の活動へのアドバイス（個々に）をいただき、活動に生かすようにする。

事例の展開内容（特色など）

(1) 対象

現在、域内の中学校で取り組んでいる。対象は相談室登校生徒である。

(2) 活動支援（連携）

支援にあたっては、地域センターのコーディネーター、スクールカウンセラー等の学校の教職員、受け入れ施設（保育所、特別養護老人ホーム、高等学校、社会福祉協議会等）の職員が互いに連携・協力し合いながら行っている。生徒とのかかわりや支援役割としては、それぞれ次の内容である。

- ・地域センターコーディネーター
 - ・活動メニューの企画・運営
 - ・受け入れ施設との連絡調整

- ・学校教職員
 - ・関係者連絡会議（打ち合わせ）等の開催
 - ・該当生徒との面談による活動の適正等の調査・アドバイス
 - ・活動への事前準備
- ・受け入れ施設職員
 - ・保育所の園児や特老入所者，高校生とのふれあいの場の設定
 - ・ボランティア内容の指示

(3) 活動内容

活動は，毎週金曜日の午前中2時間程度を「総合的な学習の時間」として時間割に位置付け，計画→準備→訪問（ボランティア活動）→反省という流れで行っている。

約2～3週間のサイクルで実施し，実際に施設等を訪問してボランティア活動をするのは月1～2回程度で1回当たり2時間の活動を基本にすすめている。

今まで行った内容は次のようなものである。

- ・保育所における保育ボランティア（5回実施）

1～2歳児のクラスで一緒に遊ぶ以外におむつ交換や食事の世話をを行った。4～5歳児のクラスでは紙芝居や紙飛行機教室などを行った。

園児たちとの活動内容については，生徒たちが計画を立て，自分たちで練習や準備をすすめた。
- ・特別養護老人ホームにおける介護ボランティア（4回実施）

入所している老人の方とリハビリを兼ねたレクリエーションをしたり，お昼の食事の世話をしたりする介護を行った。計画を立てる段階では，レクリエーションの内容（ボール運動，カラオケ，本の読み聞かせ等）を自分たちで話し合った。
- ・高校生との体験活動（1回実施）

域内の高校の生徒との交流体験学習ということで，環境科学基礎の授業を受けている生徒とハーブを使っての「サシエ」「しおり」作りなどを行った。
- ・一人暮らしの老人の方への訪問介護ボランティア（計画中）

町の社会福祉協議会の協力を得て，一人暮らしの老人宅をヘルパーの方と一緒に訪問し，除雪や家の中の清掃等のボランティアを行う。まだ，計画中であるが2～3月に2回程度実施予定である。

企画・活動する上でのポイント，留意点など

- ・地域センターのコーディネーターは活動場所を提供するだけでなく，該当する生徒のよき相談相手や話し相手となるため，できるだけ学校へ出向き，一緒に計画や準備をしたり，また雑談をするなどのふれあいの時間を持つように心がけた。信頼関係を持つことで，生徒がボランティアに関心を持ち，学校外での活動への抵抗を和らげることができた。

- ・活動においては、生徒の希望や考えを尊重し、強制しないようにした。時には、その日の体調や心の状態で「いきたくない」という生徒も出るときがあったが、受け入れ施設との事前の話し合いにより、生徒について十分理解してもらっていたので、柔軟な対応をすることができた。

評 価

- ・地域センター・学校・施設等が互いに連携して、意図的・計画的に支援することにより、今まで学校内部で抱えてきた問題を学校外の方々とも共有でき、支援のあり方や不登校の子どもへの接し方などに改善が見られるようになった。
- ・対象生徒は、以前より活動範囲が広がるとともに学校外の多くの方々と接したり触れ合ったりする活動をとおして、少しずつではあるが、相手を思いやる心や自分が社会において役に立っていける存在であることなどを感じ取るようになってきている。
- ・この取り組みは、自分自身のよさや可能性を見つけることができるようにし、学校（学級）復帰へのきっかけを提供するものである。今後、生徒の完全復帰に向けては、学校・保護者等の積極的なかかわりが必要である。

【活動風景】



【特別養護老人ホームでの介護ボランティア】



【保育所での保育ボランティア】